

第1章 主語と人称

■主語と人称

(1) 主語

「僕は中学生です。」「私たちは日本人です。」「あれは何ですか。」「彼が私たちの先生です。」「それも私のかばんです。」等の文で、「僕は」、「私たちは」、「あれは」、「彼が」、「それも」等を主語と言います。

(2) 主語の人称

英語では、主語は3つのグループに分けて考えます。すなわち「話し手」・「聞き手」・「話題に出てくる人やモノ」のグループです。「話し手」のことを1人称と言い、英語では I で表します。日本語なら「私は」「僕は」などに相当します。「聞き手」のことは2人称と言い、英語では you で表します。日本語なら「あなたは」・「君は」・「おまえは」などに相当します。「話題に出てくる人やモノ」のことは3人称と言い、その話題に上る人が男性なら he で表し、女性なら she で表します。モノや雌雄の分らない動物の場合には it で表します。それぞれ日本語では、「彼は」・「彼女は」・「それは」と訳されます。

主語の3つのグループ	人 称	主語の形	日本語では
話 し 手 →	1 人称	I	私は・僕は
聞 き 手 →	2 人称	you	あなたは・君は
話題に上る人やモノ →	3 人称	he	彼は
		she	彼女は
		it	それは

Dr. Higgins's room

日本語は、1人称や2人称を表す人称代名詞が多くある（1人称なら、わたくし・わたし・うち・わし・俺・僕など。2人称なら、あなた・あんた・おまえ・きさま・君など。）にも関わらず、人称代名詞を使うことは少ない傾向があります。特に、2人称代名詞を絶対に使わない間柄というのがあります。それは、父親・母親・祖父・祖母・兄・姉などの家族の間柄です。おじやおばなどの親戚まで含めてもいいかもしれません。

Dr. Higgins's room

日本語では、話題に上る人に関して、その人が「男性」か「女性」かの区別にそれほど神経質にはなりません。例えば、「女医さん」より「お医者さん」、「女優」より「俳優」という言いかたの方がより普通です。しかし、ヨーロッパの言語は全てこの「男性」と「女性」の区別がありますが、英語は比較的この区別がゆるやかな言語です。

(3) 主語の数

英語では、主語が一人か二人以上か（モノのときは一つか二つ以上か）ということにも注意を払わなければなりません。一人称なら「私は」なのか「私達は」なのか、二人称なら「あなたは」なのか「あなた達は」なのか、三人称なら「彼は」なのか「彼らは」なのか、という区別です。一人（一つ）の場合を「単数」と言い、二人（二つ以上）の場合を「複数」と言います。

人 称	数の区別	主語の形	日本語では
1 人称	単数 (ひとり)	I	私は
	複数 (2人以上)	we	私達は
2 人称	単数 (ひとり)	you	あなたは
	複数 (2人以上)	you	あなた達は
3 人称	単数 (ひとり又はひとつ)	he	彼は
		she	彼女は
		it	それは
	複数 (2人又は2つ以上)	they	彼らは 彼女らは それらは

Dr. Higgins's room

現代英語では二人称の単数と複数は同じ形をしていますが、その昔は、単数の「汝（なんじ）は」の thou と複数の「汝らは」の ye とに分かれていました。

■代名詞

(1) 人称代名詞

名詞の代わりにすることばを「代名詞」と言いますが、人称（一人称、二人称、三人称）の区別のある代名詞を「人称代名詞」と言います。「人称代名詞」のことを、「人」を表す代名詞だと思っている生徒がありますが、そうではありません。無生物のモノも人称代名詞を用います。

(2) 指示代名詞

1人称、2人称、3人称の区別ではなく、話し手と聞き手とのどのような位置関係に、その名詞があるかを区別して用いる代名詞を「指示代名詞」といいます。話し手の近く（＝話し手の縄張りの内側）にある場合には、**this**（複数形は **these**）を用い、話し手の遠く（＝話し手の縄張りの外側）にある場合には、**that**（複数形は **those**）を用います。そして、この「近く」・「遠く」とは、空間的だけに限らず、時間的・心理的な意味合いをも含みます。

近称と遠称	数の区別	主語の形	主語の日本語訳
近くの モノや人を指す	単数	this	これは
	複数	these	これらは
遠くの モノや人指す	単数	that	あれは
	複数	those	あれらは

■主語と動詞

(1) 動詞の種類

主語の次にくるものは、普通は動詞です。動詞には2つの種類があります。1つは **eat** 「食べる」、**walk** 「歩く」、**have** 「持っている」、**run** 「走る」、**know** 「知っている」などのように意味を持つものです。このような動詞を**一般動詞**といいます。2つめは特別な意味はなく、主語について説明を加えるときに使う動詞があります。例えば、「僕は中学生です。」という文は「僕」について説明を加えています。「僕」＝「中学生」ということです。このようにイコールの意味をもつ動詞のことを **be 動詞** といいます。第2章では主語と **be 動詞** について授業を進めます。

Dr. Higgins's room

英語の指示代名詞は **this** 対 **that** の2項対立ですが、日本語の指示代名詞は、話し手に近い「これ」、聞き手に近い「それ」、話し手・聞き手の両方から遠い「あれ」の3項対立です。そのため、**this** を日本語に訳すと「これ」に相当しますが、**that** は日本語の「あれ」・「それ」の両方に対応します。

<<< 参考図書 >>>

『日本語（下）』（1988年発行 岩波新書）